

令和3年度 SSH 成果発表会(1 学年)を開催しました！

1 月 29 日(土)に予定しておりました成果発表会について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期および形式を変更して 3 月 4 日(金)に開催しました。保護者の招待は断念しましたが、県内外の大学の 10 名の先生(対面 6 名・オンライン 4 名)には、発表の様子をご覧いただき、ご指導をいただきました。どの班も 1 年間の課題研究の成果を堂々と発表し、生徒どうしの議論も大変盛り上がりました。

○講師紹介

- ・群馬大学共同教育学部理科教育より
日置英彰 教授、青木悠樹 准教授、
- ・群馬大学理工学府より
大澤研二 名誉教授、天羽雅昭 教授、
石飛宏和 助教
- ・群馬大学情報学部より 柿本敏克 教授
- ・共愛学園前橋国際大学より
大森昭生 学長・教授、
西川正也 副学長・教授、岡井宏文 専任講師
- ・東京大学生産技術研究所より 川越至桜 准教授

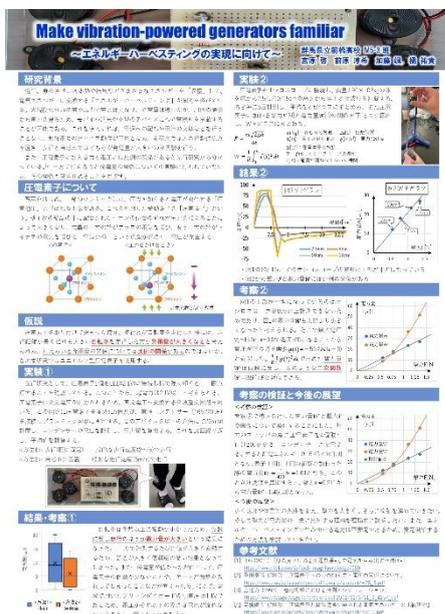
○発表形式

当初は体育館でポスター発表を行う予定でしたが、今回は各教室のスクリーンを使って発表しました。

【最優秀】(下のポスター画像)

Make vibration-powered generators familiar

【優秀】 勢多郡における同族等のつながりに関する地域性と地域差について



○生徒の声～2 年生での課題研究に向けて～

- ・今回の研究テーマを継続し、2 年生ではより深く掘り下げていきたいです。
- ・インタビューしたときに得られた「事実」と「意見」の区別を明確にしたいです。
- ・先行研究から、自分たちができることを見つきたいです。失敗したら、どうしてそうなったのか考えて次に繋げたいです。
- ・正確な対照実験を行い、拡大解釈することなく結果を得たいです。

○講師からの助言

- ・ポスターの文字情報を減らし、図やグラフも用いて、伝えたいポイントを視覚的にわかりやすく表現してほしい。
- ・発表時のアイコンタクトは大事。よくできている人が多かった。
- ・社会の中で、学術界の中で、自分たちの研究がどんなインパクトを与えられるのか。より大きな背景の中での研究の位置づけも考えられるとよい。